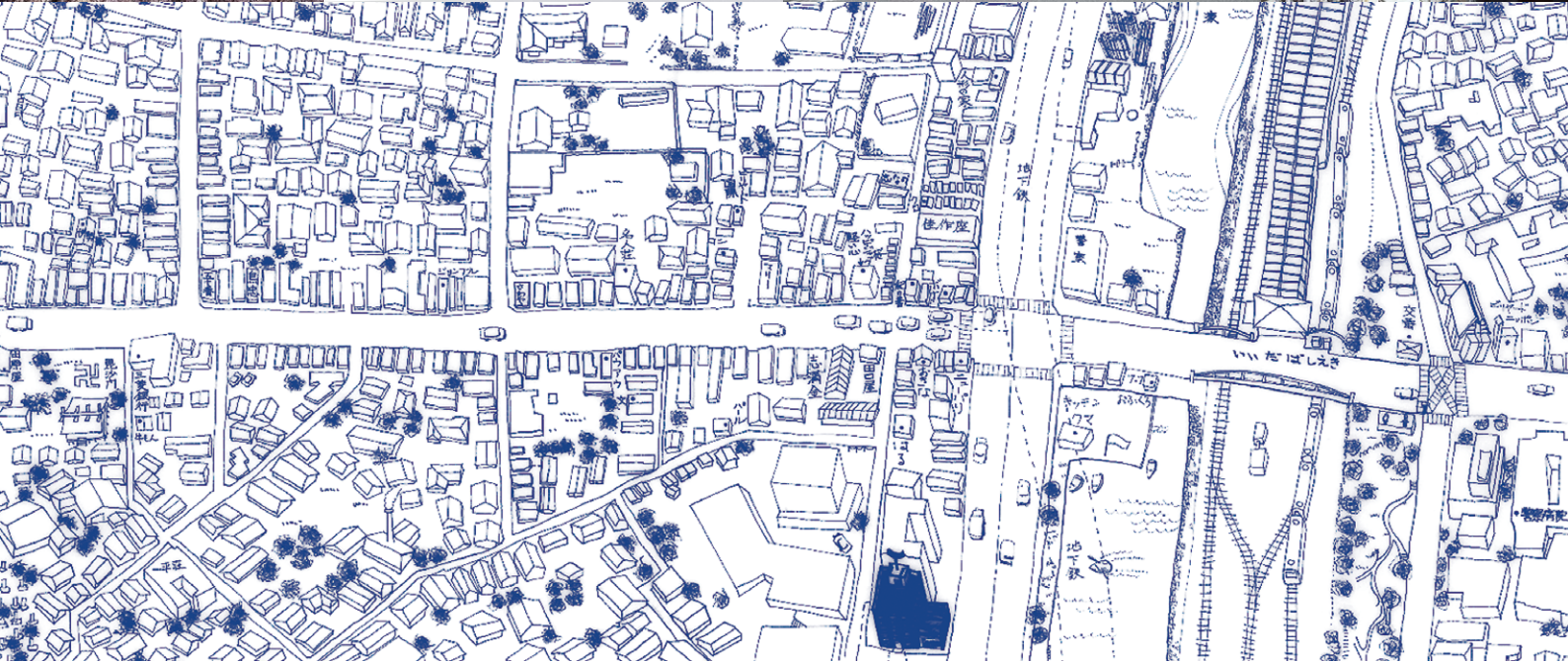




築理会 会報

2021 Autumn vol.68

東京理科大学工学部建築学科校友会



70年代の神楽坂イラスト

神楽坂もずいぶん変わりました ~すでに無くなった懐かしい店・施設を探してみてください

東(右)から 警察病院・ビリヤードニッポン・警察(機動隊)・おふくろ・キッチンマ・大郷材木店・人形の家・佳作座・ニューパリ
はる・ハッピージャック軽い心・マリー・ビリヤード国際・ロン・パール・名人荘・パウアウ・さわや・ジョンブル・牛もん
一平荘・田原屋

イラスト原図作成(小山一郎 1967卒)、イラストコピー作成(小林由佳II 1996卒)

理窓会ホームカミングデー 2021 オンライン開催

理窓会ホームページ特設サイトに築理会参加
10月31日(日) 12:00 ~ 17:00

*詳細は同封のガイドブックをご確認ください。

会員名簿を発行します。

今年度末(来年3月)に、名簿の発行を予定しています。
名簿は毎回、会費を納めて頂いた方に発送しています。
また、印刷物としての名簿の発行は、今回を最後とする予
定です。会費を納入して最後の名簿をお手元に!

CONTENTS

2021年度講演会 「つながる建築」広谷 純弘	2P
築理会活動報告	3P
築理会へのオピニオン	4P
同窓生の「今」を考える「Action!」	6P
インフォメーション	8P
名簿発行、2020年度決算・2021年度予算 会費納入のお願い、ホームカミングデー 2021 築理会ホームページリニューアル、本の紹介	

築理会の最新情報を、HP、メルマガ、Facebookで配信しています。
築理会活動へのご意見・ご要望、会員の情報がありましたらお寄せください。
chikurikai@gmail.com

つながる建築

・・・答えるべき問いを探ること



広谷 純弘

(東京理科大学教授・株式会社アーキ
ヴィジョン広谷スタジオ・1980年卒)

絵や彫刻のように、アーティストが自分の内なる声を聴き、深く自分と対話してつくるアートと異なり、建築は他者との対話の中で生まれます。だから建築はそれだけで自立して存在せずに、必ず何かとつながっています。逆に言えば、どれだけ多くのものとつながっているかが建築独特の価値とも言えるのです。

そのため、建築家が自分にとって建築とは何かを深く考えるのは大切なことですが、その建築で何ができるのかという広がりのある思考がより大切だと思います。

設計のプロセスは単に自己の嗜好の形探しではありません。設計は機能や法規やコストなどに答えながら進めますが、これら以外に、もっと大切な「答えるべき問い」がそこに隠れています。設計行為の中では、それを見つけることが最も大切なことなのです。

そしてそれさえ見つければ、形のための形探しとは異なり、答えに至る道は見えやすくなっているはずなのです。

○能作本社・工場

富山県高岡市にある鋳物メーカーの本社と工場を、産業観光の拠点として整備する計画です。初めて旧工



場を訪ねたとき、歴史を刻んだ工場が「ものづくりの現場」の魅力的な雰囲気を見せていました。そして「ものづくりの現場からのメッセージ」こそが、産業観光の拠点づくりに不可欠な答えるべき問いだと感じました。しかし、旧工場の古びた雰囲気は新工場には作れません。そこで、工場をうろうろして見つけたのが「木型」という鋳物の工程の最初に使う道具でした。これをガラス張りの倉庫に並べて、来館者が最初に出会う空間に置きました。これは展示ケースではなく生きた倉庫です。鋳物場から必要な木型を取りにきた職人に会うこともあり「ものづくりの現場からのメッセージ」そのものです。

そして、この倉庫を中心に様々な機能を配置して建築を構成し、設計を進めていきました。



○三重県立熊野古道センター

初めて熊野古道「馬越峠」歩いた時、ヒノキ林と苔むした石の道からなる



景観の美しさに心を奪われました。しかし、ここは植栽による人工林で、石の道も土木工事、つまり人の手による空間が長い時間を経て、日本の風景とも呼べる優れた景観を形成しているのです。そこで、我々のつくる熊野古道センターも長い時間をかけて、新しい日本の風景と呼べる景観に育てたいと考えました。そのために周囲の棚田の風景から突出しない水平性の建築をつくることを目指し、同時に地元の尾鷲ヒノキの無垢材で新しい木造建築をつくろうと考えました。そして、135mm角のヒノキ材の



みを組み合わせ、伝統建築を現代の技術で表現するような建築にたどりついたのです。135mmという寸法は、樹齢60～80年の木材で、これがこの地域の林業としては安定した周期なのです。こうして、この建築は周囲の環境とつながり、林業経営ともつながる、持続可能なリングに組み込まれた要素の一つになったのです。

○木と出会うまちづくり

富山市の森深い大山地域に3つのコミュニティセンターを設計しました。自然豊かな敷地



に建築をつくることで風景に個性を持たせたいと考えました。しかし建築ができるだけでは地域の風景は変わらないと感じ、地元のプロデューサーと武蔵野美術大学教授の小泉誠さん、そして行政と協力して「木と出会うまちづくり」という活動を開始しました。街角のサインやバス停、ごみ置場やベンチといった小さな点を街中に打って、人々にデザインの大切さをアピールする活動です。同時に「リビングアート イン大山」というイメージイベントも15年続けました。イベントではパビリオンや遊具を作り、イベントが終わればそれを再利用してバス停や家具を整備しました。このまちづくりの面白いところは、イベントとバス停やベンチといったソフトとハードが車軸の両輪のように機能していることです。僕と小泉さんは引退し、今は理科

大の卒業生でイベントのボランティアOB が地元のプロデューサーと共にイベントを続けています。



建築の設計は旅の準備に似ています。旅に持っていくものを並べてみると、いつも何か忘れていたような気がします。忘れ物は目の前のものを眺めていても気づきません。それを見つけるためには、旅の目的を考えなくてはなりません。そうすれば自然に大切な忘れ物が見つかるものなのです。

築理会活動報告

東京理科大学工学部建築学科が築いたネットワークは、卒業生と母校の発展を支えています。

築理会は、同窓会としての存在感を高め、さらに大学との結びつきを強めて活性化するために、3つのテーマを掲げて活動しています。

テーマ1：会員相互の交流を活性化する。

テーマ2：会員の活動を支援し、「理科大建築」のプレゼンスを拡大する。

テーマ3：東京理科大学工学部建築学科と連携して教育貢献する。

■2020年度の主な活動

- ・学生 & 卒業生交流会【先輩と語る2020】
- ・「りぼん」2019 制作支援
- ・Facebook ページの開設
- ・メールマガジン第4号～8号、号外3回発行
- ・常任幹事会にてフューチャーフォーラムを開始

■2021年度の活動計画

①情報・広報委員会

- ・会員の皆様に幅広く喜んでいただけるよう、各情報メディア（会報、Facebook、ホームページ）を発行し広報の充実を図ります。

②会員ネットワーク委員会

- ・本年度は名簿発行の年度なので、会員情報の収集に努め、少しでも多くの情報を掲載する方向で活動します。
- ・会員情報のデジタル化（データベース化）とネットワーク閲覧の導入などの課題を検討し推進を図ります。

③活性化委員会（+女子部会）

- ・新メンバーに和歌山、静岡在住の会員を迎え、地方会員のネットワークを広げて地方拠点の活性化を図る。
- ・上記およびメルマガを通じて、会員の活動をくみ上げ支援します。
- ・他の委員会とも協働して、地方会員の活動支援と連動する行事を企画します。

④建築学科への協力委員会

- ・学生と積極的に交流して在学中から同窓会を認知してもらい参加を促します。
- ・学生と卒業生の交流会イベントを実施します。
- ・卒業制作・卒業論文の表彰＜築理会賞＞
- ・新規企画案
 - 1) 理科大生対象のコンペ
 - 2) りぼん掲載作品のオンライン人気投票
 - 3) ホームカミングデーに卒業生の子供を対象とした建築体験
 - 4) 海外卒業生と連携して留学の推進

⑤企画総務委員会

- ・会長の補佐会の運営の円滑化と活性化を目指す。
- ・事務局のサポート事務部門のアウトソーシング化
- ・行事の企画運営（総会、新年会、常任委員会他）
- ・財務の安定化財源の確保、対策の立案と実施
- ・予算の組み立て、財源と支出とのバランスを見据えて活動の提案

鋼骨鉄トラス・プレードジョイント工法 エクス・ティービー

ECS-TP (Top Plate)

鉄骨構造物に革命を。
杭と柱の一体化。

株式会社 三誠
SANSEI INC.

Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

特許取得 第5702410号
NETIS番号:KT-160127-A
ECS工法工法（特許権の継承工法）
東京都建設局 新技術登録 13011000

エアー断震住宅 株式会社 三誠 AIR断震システム
http://www.airdانشin.jp/

究極の地震対策住宅 国土交通大臣認定取得 国住指第2036号

①通常時
地震センサーが常にゆれを監視しています。

②地震発生時
地震センサーが一定以上の地震波を検出すると即時にエアータンクから空気が送り込まれて家を浮かし、揺れを断ちます。

大地震が来ても大丈夫
震度の揺れを1/10に軽減。エア断震住宅なら、毎日安心して暮らせます。

SANSEI Holdings, inc.

築理会へのオピニオン

- ①学部卒業年(西暦)
- ②所属研究室
- ③現在の勤務先

今回、2020年秋号のアンケート調査から続く、築理会の活動をより活発にするための試み第二弾として、在校生でもある「りぼん委員」と2名の卒業生の方から築理会に対するオピニオンを頂きました。比較的、若い世代からの意見に偏ってしまいましたが、参加率の低い若い世代からのこうした意見は今後の活動方針を決める上で重要であると考えました。3名の方からの提言はどれも具体的で、かつ現状の築理会が手をつけられていない新しい視点だとも感じました。一方、現在、運営に携わっているメンバーだけでは、人手の問題で実行できないことも多く、こうした新たな試みをする上でも、運営側の人材確保、特に若い世代の参加も重要だと感じています。築理会へのオピニオンは会報誌だけではなく、Facebookや築理会のメールアドレスでいつでもお待ちしております。ぜひ、率直なご意見をいただきながら、具体的な活動に落とし込んでいければと思います。

りぼん委員会

飯盛 冴紀 修士1年 ②熊谷研究室

2021年8月6日に築理会とりぼん委員会、それぞれの有志メンバーによる意見交換会が執り行われた。その中でりぼん委員会から築理会への意見は大きく分けて3つの議題が挙げられた。一つ目は学生と卒業生の交流会について、二つ目は築理会のSNSの活用について、三つ目は理工学部(野田建築会)との交流についてであった。

一つ目の学生と卒業生の交流会については、登壇者の中には、親よりも歳が離れていたり、学生が身近な存在として相談しにくい先輩達も多く、交流会の目的である学生の就活支援や業界の把握を促しきれていないのではないかと意見が挙げられた。この交流会のメリットとして歳の離れた先輩とも気軽に話せる関係を構築できることも含まれるが、離れすぎてしまうとそもそも学生の集客が見込めなくなってしまう恐れがある。この問題に対して各交流会に明確なテーマを設けることで講演を学生にとってより聞きやすいものにするという提案が挙げられた。また、そのテーマは3年生や修士1年生に向けた就活情報以外にも1年生から4年生まで誰もが興味を持てる内容であれば多くの学生を集めることができると考えられる。建築学生の視野を広げるためにも在学中では触れることができない実務についての情報や建築以外の道に進んだ建築学科の先輩による講演などが学生も聞いていて楽しめるのではない

だろうか。学生が興味を示しやすいテーマで学生を集客し、それを魅力に歳の近い先輩にも多く集まっていたことで交流会のさらなる繁栄が見込めるという結論に至った。

二つ目の議題はSNSの活用に関する意見であった。現在、築理会はFacebookを活用して宣伝を行っているが、学生のFacebook利用率に関しては疑問が残る。また、Facebookという媒体自体がやや堅苦しい印象を持っており、気軽に利用できる点においてはInstagramやTwitterのほうが優れており利用率も高いという意見が挙げられた。そこでそれぞれのSNSを用いてどのような利用方法が可能か想定を行った。まずInstagramは写真をメインとする特性を生かし築理会ホームページのギャラリー項目に載せられているコラムを定期的に投稿することが可能である。これを常設のコンテンツとし、イベントの告知などがあるときはストーリー機能を利用して広めることができる。Instagramは多くの学生が利用しており質問などの応答にもダイレクトメッセージを活用して対応が可能であるためかなり有用である。次にTwitterに関しては多くの学生が建築の情報を得るために使用しているため情報の拡散に役立つと考えられる。Twitterにはあらかじめ設定した内容を自動で発信するbotの機能もあり情報の発信にはかなり最適といえる。また気軽なコミュニケーションツールとしても活用しやすく、学生との距離を縮めることが比較的容易にできる。学生の心理的障壁を取り払うために気軽な話題をツイートし、リプライの中で会話を展開することで心理的安全性を確保させ築理会と学生との繋がりを生むきっかけができる。一つの投稿をする度に資料を必ず用意する必要がない点においてTwitterは最も気軽に扱える媒体だと言える。常設のコンテンツとして挙げられたギャラリーのコラムは理科大の先輩方が手掛けた有名建築を主としており、普段は見ることのできない建築の裏側を覗くことができるため学生の関心は期待できる。

最後に挙げられた議題は理工学部の建築学科との交流についてである。築理会と野田建築会の間での交流会の企画はされているものの実際に開催されたのは去年でも一度のみで学生同士の繋がりはさらに希薄になっている。現状では築理会と野田建築会で組織が分かれていることが交流の妨げとなっているため、二つの組織の連携や新たな組織の結成などが考えられる。しかしいずれにしても野田建築会との合意が必要であるためこの問題は野田建築会とともに検討する必要がある。

そのほかにも議題には挙げられなかったが、りぼん委員からの意見はいくつか寄せられた。一つは築理会賞の評価方法についてであった。去年から卒業制作の講評会はオンラインで行われるようになったが、その評価について懸念されていた。具体的には発表後の質疑応答の時間に収まらな

かったコメントはチャットに書き込む形をとっていたが、次の発表の間にそれを書き込んでいるため発表内容の聞き逃しが生じるのではないかという内容であった。また、最後の発表者の後にはコメントを記入する時間がとられていないため公平性を損なう結果となってしまう改善の余地があるのではないかという意見であった。二つ目の意見はBIMの教育についてであった。現在、建築業務においてBIMの普及が著しく進んでおり、社会進出に向けて学生のうちにBIMソフトに触れておくことを望む意見が寄せられた。すでにBIMソフトに精通している先輩方に運用方法などを教育していただく定期イベントなどが開催できればより多くの学生に興味を持ってもらうことができ築理会との関係を深めることが可能である。最後に築理会のホームページについて意見が寄せられた。ホームページのトップには築理会や会員からのお知らせが記されているが、更新の頻度があまり多くないため新たなトピックまでかなりの期間が開いてしまう。新たな常設企画の設立や既存のコラムの更新頻度を上げるなどしてホームページの活性化が必要であるという意見であった。

今回の意見交換会は主に築理会に対する意見の提示であったが、学生と既卒の先輩方との交流をより円滑に進めるためには築理会の働きだけでなく、りぼん委員会が学生との橋がけとなり築理会を支援することが重要である。そのためにも築理会とりぼん委員会との今後の連携が最重要となり意見交換は定期的に行う必要がある。そこでりぼん委員会から築理会との連絡窓口の選出や会報誌のレイアウト作業に学生を起用するなど築理会とりぼん委員会では相互の関係を深める様々な取り組みを考案している。今後もこのような取り組みを発展させて行き、近い将来には学生を中心に企画の立案なども行えるよう交流を深めていきたいと思う。

山田 雄大

① 2017年 ② 今本研 ③ 東急建設株式会社

組織（同窓会）として、学内としての築理会

最初の築理会名簿発行が昭和46年。50年という歴史がありますから、会員の中には、既に現役を引退された方、建設業界を初めとした各界で活躍されている方など様々だと思います。私は今本研究室を修了して、社会人5年目となります。施工管理に就き、最初の作業所は東京オリンピック選手村でした。現在は、茅場町のオフィスビルを建設中です。

社内でも、本学を卒業され活躍されている方々と、多くの場面でお会いしました。2つの作業所を経験する中で、技術面、経験面で非常にお世話になったと感じています。また、後輩が入社した際には、自分が分かる範囲で相談に乗るな

ど、卒業後も大学を通じた関係を強く感じています。この繋がりは、交流を深める中で理科大学ということがわかったことが大きいと感じています。社内でも理科大学卒業生名簿がありますが、これらを包含する大きな存在として、築理会名簿があると思います。先輩後輩の、各所属・在籍数などが分かりますから、交流の輪を広めるために活用される方も多いのではないのでしょうか。しかしながら、比較的年齢が若い同期・後輩の中では活用の有無は、半々のように感じます。どういうことかと言いますと、若い会員の積極的な参加により、より良い会になるのではないかということです。22期生による活性検討委員会の時には、大規模な作品展を開催していますが、どの年でも、各分野分け隔てなく参加を募る会がありますと、既存会員・新規会員との交流がタイムリーに行えると感じます。築理会の良さを理解して入会しても、入会后、活動が少ないとその意図がややふやになってしまうのではないのでしょうか。自分自身が、神楽坂1号館にて開かれた会に出席した時も、周囲に同年代がおらず、少しばかり残念に思ったのを覚えています。

学内組織として、築理会の存在の強調強化が重要に感じます。例えば、学外の繋がりを特に意識する就職活動前、各業界で活躍している築理会メンバーによる在学生に向けての座談会や、質問会の開催はどうでしょうか。在学中から、新規メンバーと成り得る面々と交流を深め、在学中から卒業後へと続く築理会の在り方が理想かと思います。とはいうものの、現在のコロナ渦においては、交流がし難い状況です。ここでデジタルネイティブ世代の在学生・30代前後の会員でICT（teams等）を活用した運営を行うのはどうでしょうか。これまで対面式で行われていた会は大変意味のある会です。媒体を、ネットツールを介すことで、所在・年代に捕らわれず参加が容易となり、経験が多い先輩方の深い知識とICTが融合したときに、大きな価値が生まれるのではないのでしょうか。

阿部 信夫

① 2002年 ② 真鍋研(学部)→大月研(修士)
③ 鹿島建設株式会社 建築管理本部 BIM 推進室

卒業生からみた築理会へ期待するもの

機会を頂きましたので私が考える築理会への期待について書いてみます。

築理会の役割について考えてみます。会報2020年秋号のアンケート調査を見ますと、築理会の活動に参加したことが無い方がいる一方で、講演会、懇親会やOBOG・学生交流会など様々なイベントが開催されていることがわかりました。私自身、卒業後、所属研究室のOBOG会に出席したことはありましたが、築理会のイベントに参加したことは殆どなかったと思います。その後、私は海外赴任となり、

10年近く日本から離れた生活をしてきたため、国内でのイベントに参加することが難しくなっていました。

そのような状況ではありましたが、2019年頃に国内大学との交流検討について、当時の上司から指示を受け、改めて母校を訪れる機会ができ、築理会のOBOG・学生交流会に参加をさせて頂きました。卒業から15年以上経過した私にも、OBOGの窓口が用意されていること、同窓生、現役学生と交流できる「場」が用意されていること、築理会の取り組みが継続されていることを大変有難く感じました。

また今年、鹿島建設に中途入社しました。入社早々、学生時代の同級生に鹿島理窓会の紹介を受け、300名近い方々が働いていらっしゃるのことが分かり、大変心強い気持ちになりました。

昨年から世界的に流行しているコロナ禍により、日常での人とのつながり方が大きく変わったことは、皆さん実感をされている通りです。直接の対面の機会は減っていると思いますが、人とのつながり方や生活の仕方については、変化のチャンスだと捉えることも出来るでしょう。ビデオ会議は日常となり、クラウドサービスやオンラインペイメント等が、以前と比べ身近になったのではないのでしょうか。

帰国後、親戚・友人たちと物理的には殆ど会えていないものの、各種SNSやビデオ電話により、オンラインで充分なコミュニケーションができています。共通の友人を持つ初対面の人（物理的には会っていませんが）と、オンライン飲み会で知り合うことも出来ました。

このようなニューノーマルをベースとした生活習慣により、築理会においても、情報発信の電子化、各種イベントのオンライン化だけでなく、開催頻度を高めることも容易になると思います。「集団」でのイベントだけでなく、卒業生データベースから、在校生がピンポイントで卒業生にアプローチをする、あるいは卒業生から発信することも、これまで以上に気軽に出来るようになるのではないのでしょうか。運営費についても、サブスクリプションやイベント時徴収など、これまで以上に柔軟な運営が可能になるはずす。

築理会を通じた、同窓生・在校生との交流の機会を増やすことで、存在意義をさらに高めて頂きたいと考えています。

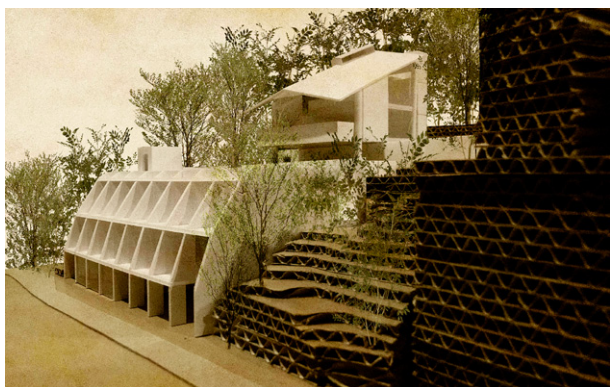


図1「人間の建築」

同窓生の「今」を考える「Action!」

今回は「Action!」をテーマとして、受賞や書籍の出版をされている方や、多岐にわたる活動をされている方々に取り組みされているお仕事や活動についてお聞きしました。

Profile

- ①出身地
- ②好きな建物
- ③今まで仕事で行ってきたこと
- ④今後取り組みたいこと

人間の建築



齋藤 隆太郎
2006年卒
大月研究室
株式会社DOG一級建築士事務所、
東京大学特任研究員

profile

- ① 東京都
- ② 名護市民会館
- ③ 様々な用途の建築設計監理、PFIの研究
- ④ ビールの醸造

最近、福祉関係の設計を依頼されることが多くなった。私が竹中工務店に在籍していた時はグループホーム、東京大学博士後期課程に在籍していた時はサ高住の設計に携わっていたが、今は障がい者の雇用支援施設や、そうした事業を手掛ける社団法人の小規模多機能や保育園を設計している。その都度「福祉」という言葉と向き合い、様々なインプットはするのだが、改めて障がい者福祉と向き合っ て気づくことは、福祉とは「人権の尊重である」ということだ。

障がい者に限って言えば、2006年の障がい者自立支援法が施行されるまで、障がい者人権は確立されていなかったと言っても過言ではない。ここで明文化された最も重要なことは、「意思決定、選択の尊重」である。自分で考え、行って、決断する、そうした自立支援に向けてサポートすることが「福祉」の最たるものだと思う。

これは高齢者福祉や児童福祉にも当てはまり、自らが選ぶ、決定するサポートをすることが福祉、そしてそれを実現できる器、つまり利用者にとって様々な選択肢がある建築が本当の意味での「福祉建築」なのである。従来の福祉施設は、原則的に個室を用意して、機能訓練室、交流室等でサービスを行う、といった少し米国寄り（ビジネスベース）の福祉が展開されてきた。

私が今設計している福祉建築を「人間の建築」(図1)と位置付けている。今まで物質的な豊かさや、精神的な豊かさを誇示する建築は多数存在しているが、人間らしく自らが行動・選択し、社会に何らかの寄与する「人間的な豊かさ」に言及した建築がどれほどあったか。建築の姿形は強固な様相であっても良いが、その確固たる空間がどれだけ自由で透明感に溢れているか、その本質を問う福祉建築＝人間の建築を完遂したいと思う。

社会人生活25年を振り返って



伊藤 英明
1994年卒
吉澤研究室
東京電力エナジーパートナー(株)

profile

- ① 東京都
- ② 水の教会(安藤忠雄)
- ③ 建築設備の省エネルギー計画、等
- ④ 建築関連のプロジェクトマネジメント業務

私は東京電力エナジーパートナーという電気の小売り会社に勤務しています。大学院修了後、東京電力に営繕担当として入社しましたが、入社後8年経った時に自ら希望して営業部門へ異動し、すでに17年になります。電力会社の営業部門に建築出身の人はいるの？建築の知識は活かせるの？と思う方もいるかと思いますが、ガス系の会社も含めてエネルギー会社の営業部門には比較的多くの建築出身者がいます。私自身はソリューション営業という技術営業担当として主にお客さまへの電化システムや蓄熱システム等の省エネルギー提案に携わってきましたが、大学や大学院で学んだ建築知識や経験は様々な形で多くの業務に活かしていると感じています。

会社生活の中で最も記憶に残っているのは、東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所の事故で多くの方々にご迷惑をお掛けしたことです。私自身もボランティアや電気料金値上げ対応等の業務に従事しましたが、当時は転職する知り合いも多く、会社に残るか辞めるか悩んだことを覚えています。

震災から10年が経過し国の力を借りてどうにか事業継続出来ている中、営業活動も再開され、私自身も日本ファシリティ・ソリューションというESCOやエネルギーサービス事業を担っている子会社への出向後、昨年10月より仙台に勤務していますが、被災地でもある仙台に勤務することになったのも何かの縁と感じています。

このところCN(カーボンニュートラル)という言葉が一般的になってきて、お客さまからもその関連でご相談頂くことがあります。電力会社に求められるものも変化してきていると感じていますが、これまでに得てきた知識・経験や人脈を活用しながら残りの会社生活をより豊かに出来るよう自分なりのスタンスで社会人生活を楽しみたいと考えています。

分野を超えて



山岸 隆
2014年卒
伊藤裕久研究室
(株)安井建築設計事務所

profile

- ① 神奈川県
- ② 地中美術館
- ③ 建築設計、デジタルデザイン
- ④ 魚釣り

30歳になり、今までを振り返ってみると、偶然が重なり、様々な仕事に関わってきたと気づきました。私は今、安井建築設計事務所のICTデータマネジメント部に業務に携わっています。現実と同じ建物の立体モデルを再現し、建物情報と連携して建築設計へ生かす仕組みの『BIM』の推進やICT関連のサポート業務を中心として、社内の設計3Dモデルを用いた環境解析や設計へのコンピューティショナルデザインに取り組んでいます。特に今は、国土交通省主体で建築BIM環境整備部会によるBIM活用推進に向けた標準的なワークフローの検証のために、BIM導入の効果、活用検証する『BIMモデル事業』に携わっております。

入社時は設計担当として庁舎や学校、空港の増改築の設計業務に関わり、建築主の要望に合わせてプランニング、要望に応えるだけでなく、建築主に喜んでもらえるようなデザイン提案、行政手続き業務などを行っていました。

大学時代は伊藤裕久研究室で伝統技術保持者といわれる方々の仕事場の実測図面やスケッチを描いて、民俗学的な視点で生活環境を記録することを行っていました。大学院では研究室のプロジェクトとして基本計画に関わった甲府市武田氏館跡歴史館が2019年に開館し、とても感慨深かったです。古地図を調べて、身近な今の生活で見られないことを発見することは、今も興味を持っています。

建築学科に入ってから現在に至るまでそれぞれ異なる分野を経験してきました。きっかけはすべて偶然で、一つのことに限らず、異なる分野に興味をもっていたこともかもしれません。その経験の中、今の業務に生かすことができ、様々な方とつながるきっかけになっております。

オフの時は、学生の頃から街歩きしつつ、建築を巡ることが好きでしたが、今ではHMDを使ってバーチャル世界も楽しんだりしています。これからも様々なことに挑戦していきたいと思います。

**令和2年度
1級建築士試験**

**合格者占有率
No.1**

令和2年度1級建築士設計製図試験
全国合格者3,796名中/当学院当年度受講生2,041名
全国合格者占有率53.8%

総合資格学院は**東京都も全国も**
合格実績**No.1**

学科+設計製図試験
東京都 ストレート
合格者占有率 **63.8%**
東京都ストレート合格者 475名中 / 当学院当年度受講生 303名

設計製図試験
東京理科大学
卒業生当学院占有率 **57.4%**
東京理科大学卒業生合格者141名中 / 当学院当年度受講生81名

学院長: 岸 隆司

総合資格学院

全国約100拠点

北千住校 TEL.03-5284-3911 足立区千住3-98 千住ミルディス1階 4F

【東京理科大学OBOG限定】
1級建築士 合格対策 説明会
お申込は右記QRコードから/

法定講習 実施中 一級・二級・木造建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習

開講 講座 1級・2級 建築士/建築・土木・管工事・造園施工管理/構造・設備設計1級建築士/建築設備士/宅建士/インテリアコーディネーター/賃貸不動産経営管理士

*卒業生学校合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。*総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。*全国/都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。*学科・製図ストレート合格者は、令和2年度1級建築士試験に合格し、令和2年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。*総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和2年12月25日現在)

名簿発行

今年度末（来年3月）に、名簿の発行を予定しています。名簿は毎回、会費を納めて頂いた方に発送しています。また、印刷物としての名簿の発行は、今回を最後とする予定です。現在、発行作業と並行してWeb等を利用した名簿への移行を検討中です。

皆さまの会員情報は、築理会ホームページのお問い合わせのタグから随時変更ができます。10月末までに更新された内容が今回の名簿に記載されます。また名簿に記載を希望しない項目につきましてはお問い合わせ内容欄にご記入ください。

2020年度決算・2021年度予算

2021年度総会で承認された昨年度の決算と今年度の予算は次のとおりです。

2020年度決算 (収入の部)		(支出の部)	
部門	金額	部門	金額
2019年度繰越金	3,315,964	会報	1,448,893
築理会会費	1,434,500	HP、メルマガ維持費	125,380
広告収入	554,400	築理会賞、りぼん支援	120,000
寄付、余剰金他	327,503	事務費、運営費(会場費)	100,480
2020年度総計	2,316,403	2020年度総計	1,794,753
		2021年度繰越金	3,837,614
総収入	5,632,367	総支出	5,632,367

2021年度予算 (収入の部)		(支出の部)	
部門	金額	部門	金額
2020年度繰越金	3,837,614	会報、名簿	2,520,000
築理会会費	1,495,000	HP更新、メルマガ維持費	350,800
広告収入	1,600,000	築理会賞、りぼん支援	120,000
		事務費、運営費(会場費)	104,200
2021年度総計	3,095,000	2021年度総計	3,095,000
		2022年度繰越金	3,837,614
総収入	6,932,614	総支出	6,932,614

会費納入のお願い

築理会は皆さまの会費により活動しています。卒業生、在校生への多様な活動のために、会費の納入をお願いします。会費は3,500円/年です。同封の振込用紙にて納入してください。築理会やりぼんの活動などに対する寄付も受け付けています。

卒業後30年を経過した卒業生には終身会員制度があります(会費30,000円を納入し、以降の年会費は免除。1991年以前に卒業された方が対象です)。

振込用紙がお手元ない場合は、以下に直接お振込みいただくことも可能ですが、ご氏名、学部卒業年を併せてお知らせください。

郵便局

振替口座番号：00110-5-171952
築理会（チクリカイ）

ゆうちょ銀行（金融機関コード9900）
店番：〇一九店（ゼロイチキユウ）
預金種目：当座 口座番号：171952
築理会（チクリカイ）

ホームカミングデー 2021

10月31日（日）12：00～17：00

理窓会ホームカミングデーはオンライン開催となりました。特設サイトに築理会が参加します。

築理会企画：「最近の神楽坂まち歩き」録画配信

建築学科は神楽坂（1962年）に発足し、九段（2006年）、葛飾（2013年）に移転した。神楽坂キャンパスを経験した世代と経験していない世代が、自ら取材した最近の神楽坂の写真を持ち寄り、神楽坂の変化、素晴らしさや面白さについてディスカッションします。

*詳細は同封のガイドブックをご確認ください。

築理会ホームページリニューアル

築理会ホームページをリニューアルします。デザインを一新、構成をわかりやすくします。また築理会の活動や会員の皆様の情報をより一層発信します。

本を紹介

「第21回 歴史浪漫文学賞」（歴史文学振興会主催）

最終選考作品

野田正治（1970年卒）著 『陰陽の都城』

— 日本書紀の呪縛が解けて

高松塚とキトラの被葬者が浮かんだ—

出版社：NextPublishing Authors Press

Amazonから購入できます。



従来歴史学者ではない建築家が、今までと違った視点から古事記と日本書紀を紐解いている。文献や発掘物だけでなく寺社や古墳等の建造物の配置と方位に焦点をあてると今まで見えなかったものが見えてくる。

「蘇我馬子蝦夷入鹿」が不比等の暗号であるとの記述は興味をそられる。記紀は藤原氏が編纂したものであるが、本作を読むと歴史を改竄していたのではと思わざるを得なくなり、実際本当の歴史はどうであったのか改めて知りたくなった。

(三浦博範・1998年卒)

編集長：近藤 剛啓

編集委員：古池 廣行、野田 正治、飯山 道久、荒井 真一郎、
浦山 千明、森 清、伊藤 学、高橋 潤子、
阿久津 好太、熊谷 一清、鈴木 敦子、三浦 博範、
栢木 まどか、渡邊 杏奈、山岸 隆、本山 真一郎

編集後記：(伊藤 学)

「築理会へのオピニオン」で若い世代の意見に触れ、「同級生の今」では多岐にわたる活動を知ることができ刺激になります。今後も、いろいろな分野の会員を紹介して欲しいです。